



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2013

8月31日号

136
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024 (559)1043

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

出前講座



副会長 遊 佐 烈

東日本大震災から2年4か月が経過した7月10日に、福島市健康保険部放射線健康管理室から福島障害者職業センター職員へ放射線に関する出前講座を依頼された。所長さんを含め10名程度で、正規職員は数名で県外から通っている方々、残りは福島の非正規職員の女性の方々である。皆さんへの放射線に関する知識普及のための講演会という事であった。所長さんからは、個人被ばく線量管理を上から指示されるがどのようにすれば良いのか具体的な指示のないまま浜通りへの出張が多い職員への対応に苦慮されている話を伺った。更に職員の皆さんからは、示される数値をどのように理解すればよいのかの質問もされた。cpmなのかBqなのか、はたまたSvなのか？一般の方々にすればどのような意味を持った数字なのか、それがわからないから不安が大きい。講演の中では放射線の種類や測定機器の紹介、放射線による人体への影響等を説明し、事前に頂いた質問に対してお答えする方法を取らせて頂いた。質問の中に、3月15日に浪江町から郡山に避難した際にスクリーニングを受けたが、針が振り切れ値を聞いたが教えて貰えず、上着は大きなビニール袋に入れられ洗濯するように、更にすぐに洗髪するように言われたがシャワーが使えない様子で早急にどこかで洗髪するように言われたがどの程度の被ばくがあったと予測されるか？というご質問であった。スクリーニングの初めは13,000cpmで除染するという事であったが20日に100,000cpmに引き上げられた経過があり、GM管を使ったスクリーニングであったため最大100,000cpmまでで、それ以上は測定出来ない。100,000cpmで1 μ Sv/hと評価出来るが数値が分からない以上は推定出来ない事、ただ外部被ばくにおける最大値が25mSvと報告されている事のみをお伝えするしかなかった。更にご自宅で栽培しているキノコについて昨年12月に独自に測定に出したところ、シイタケのCs134が13,200Bq/kg、Cs137が23,000Bq/kgあるがほだ木に吸収されているのか？どのくらいこの状況が続くのか？の質問を受けた。現在の規制値が100Bq/kgを考えるともちろん食べられない。キノコの菌糸は浅いところを広がるので、ほだ木の表面に降り注いだCsのために高い値となっていると考えられること、現在のほだ木は使用せず、汚染されていないほだ木を持ち込むとしても下の土を削り取り、ビニールハウスで覆うなどが必要である事、Cs134の半減期が2年、Cs137の半減期が30年を考えると数年後はCs137だけを考えればよいが、それにしてもかなり厳しい状態である事をこちらが逆に認識させられた。放射線・放射能を正しく理解するための市民公開講座を技術学会と福島県診療放射線技師会の共催で毎年行って来たが、最初の年は350名、2年目は250名、今年は100名弱の市民の方が参加された。大分落ち着いてきたような印象を持っていたが、本当はどうしようもない現実に直面し、諦める方々が多くなって参加人数が減っていったのではないだろうかと考え、事態の大きさに押しつぶされそうになる。福島県診療放射線技師会へ講演依頼があれば原発災害対策委員会から講師を派遣して講演を行う体制を取っているが、じっくり話を聞いて、質問しやすいようにするためには少数人数の方が良いと思われる。今後も、この活動を続けて行くことが福島県に住む我々放射線技師の仕事である事を認識し、誰でも質問に対して答えられるように知識を持たねばならない。今年も県内で健康祭りが開催される。福島県診療放射線技師会では新たなポスターを作成したので有効利用して頂きたいし、今年度購入したピラニアで、われわれが使用する装置の精度管理を行い、被ばく線量の低減に努めるなど、やらねばならない事が山積しているが一つずつ乗り越えて行くしか方法はない。

平成25・26年度役務分担一覧

(理事会・編集広報委員会は前号記載済み)

1. 総務企画委員会

委員長	齋藤 康雄	県南	坪井病院
副委員長	伊藤 陸郎	県北	自 宅
委 員	遊佐 烈	県北	県立医大附属病院
委 員	新里 昌一	県南	太田西ノ内病院
委 員	平井 和子	県北	北福島医療センター
委 員	佐藤 政春	県南	三春町立三春病院
委 員	水沼 利夫	浜通	総合磐城共立病院
委 員	白川 義廣	会津	竹田総合病院
委 員	片倉 俊彦	県北	自 宅

2. 表彰委員会

委員長	齋藤 康雄	県南	坪井病院
副委員長	遊佐 烈	県北	県立医大附属病院
委 員	新里 昌一	県南	太田西ノ内病院
委 員	平井 和子	県北	北福島医療センター
委 員	佐藤 政春	県南	三春町立三春病院
委 員	水沼 利夫	浜通	総合磐城共立病院
委 員	白川 義廣	会津	竹田総合病院
委 員	伊藤 陸郎	県北	自 宅
委 員	片倉 俊彦	県北	自 宅

3. 財務委員会

委員長	佐藤 佳晴	県北	公立藤田総合病院
副委員長	阿部 郁明	県北	県立医大附属病院
委 員	後藤 孝	県北	県立医大附属病院
委 員	菅野 修一	県南	田村市立都路診療所
委 員	星 剛志	会津	入澤病院
委 員	角浜 憲孝	浜通	総合磐城共立病院

4. 精度管理委員会

委員長	佐藤 政春	県南	町立三春病院
副委員長	渡部 育夫	会津	県立医大附属病院
委 員	古川 徹	県北	柘記念病院
委 員	篠原 宏幸	県南	白河病院
委 員	加藤 利夫	県南	日東病院
委 員	佐竹 一博	会津	竹田総合病院
委 員	星 寿郎	会津	高田厚生病院
委 員	角浜 憲孝	浜通	総合磐城共立病院
委 員	池田 昭文	浜通	渡辺病院

5. 調査委員会

委員長	山田 隆弘	会津	会津中央病院
副委員長	白川 義廣	会津	竹田総合病院
委 員	佐藤 久光	県北	福島赤十字病院
委 員	増子 勇一	県南	寿泉堂総合病院
委 員	照井 英樹	県南	太田熱海病院
委 員	目黒 昭夫	会津	県立医大附属病院
委 員	外山 慎	会津	保健衛生協会 会津地区センター
委 員	舟生 晴雄	浜通	松村総合病院
委 員	大和田重義	浜通	公立相馬総合病院

6. 学術委員会

委員長	新里 昌一	県南	太田西ノ内病院
副委員長	佐藤 孝則	県北	県立医大附属病院
委 員	松井 大樹	県北	北福島医療センター
委 員	三浦 勉	県北	社会保険福島二本松病院
委 員	鍵谷 勝	県南	総合南東北病院
委 員	田代 和広	県南	白河厚生総合病院
委 員	穴澤 明弘	会津	坂下厚生総合病院
委 員	工藤 靖之	会津	竹田総合病院
委 員	田中 邦夫	浜通	総合磐城共立病院
委 員	鈴木 規芳	浜通	呉羽総合病院
実 務	庭山 洋	県南	太田西ノ内病院
実 務	大河内 徹	県南	太田西ノ内病院

7. ネットワーク委員会

委員長	菅野 和之	県南	根本クリニック
副委員長	水沼 利夫	浜通	総合磐城共立病院
委 員	斎藤 聖二	県北	須川診療所
委 員	阿部 智	県北	大原医療センター
委 員	福田 和也	県南	公立岩瀬病院
委 員	伊藤 敬	県南	寿泉堂総合病院
委 員	鈴木 雅博	会津	竹田総合病院
委 員	鈴木 規芳	浜通	呉羽総合病院
実 務	石森 光一	県南	埴厚生病院
実 務	田代 雅実	県北	県立医大附属病院

8. 生涯教育委員会

委員長	堀江 常満	県北	大原総合病院
副委員長	秋山 淳一	浜通	常磐病院
委 員	小池 沙織	県北	北福島医療センター
委 員	笹木 毅	県北	公立藤田総合病院
委 員	濱端 孝彦	県南	坪井病院
委 員	金澤 孝彦	県南	白河厚生総合病院
委 員	山下 朋廣	会津	竹田総合病院
委 員	平塚 幸裕	会津	県立南会津病院
委 員	花井 辰夫	浜通	南相馬市立総合病院
実 務	永井 千恵	県北	県立医大附属病院

9. 原発災害対策委員会

委員長	遊佐 烈	県北	県立医大附属病院
副委員長	村上 薫	浜通	相馬中央病院
委 員	平井 和子	県北	北福島医療センター
委 員	佐藤 政春	県南	町立三春病院
委 員	水沼 利夫	浜通	総合磐城共立病院
委 員	白川 義廣	会津	竹田総合病院
委 員	片倉 俊彦	県北	自 宅
委 員	齋藤 康雄	県南	坪井病院
委 員	新里 昌一	県南	太田西ノ内病院
実 務	嶋田 峻二	浜通	南相馬市立総合病院
実 務	佐藤 靖芳	県北	大原医療センター
実 務	放射線 管理士部会	部会長	佐久間守雄 星総合病院

「富塚光夫氏 瑞宝双光章受章祝賀会」 開催される

平成25年度春の叙勲において、瑞宝双光章を受章された富塚光夫氏の受章祝賀会が、平成25年7月14日に郡山ビューホテルにて開催されました。



(祝辞を述べる齋藤会長と富塚光夫氏ご夫妻)

祝賀会は県南地区協議会の主催で、技師会関係者50名と富塚氏親族や地元の方を合わせて100名を超える方々にお集まり頂きました。会は渡辺和夫前理事の司会で始まり、佐藤政春県南地区委員長が発起人挨拶、伊藤隆郎事務局長が功績をご披露しました。その後、齋藤康雄県会長、太田西ノ内及び大方病院病院長から祝辞を頂戴しました。富塚氏から受章者挨拶は、氏のお人柄が感じられる内容で、多くの方々への感謝の気持ちが述べられました。新里昌一県副会長の乾杯の音頭で祝宴に入り、元部下が作成したビデオ映像を見ながら、華やかに富塚氏の叙勲をお祝いし、最後に吉田豊元理事の万歳三唱でお開きとなりました。

今回の受章は、富塚氏はもとより県技師会としても、本当に名誉な事です。優秀な先輩を見習い、医療の向上発展に寄与するように、今後も活動して行きたいと思われました。なお、富塚氏より県技師会へ寄付を頂きました、本当にありがとうございました。

X線装置QC用非接続型測定器『Piranha』 の紹介

精度管理委員会・機器管理部会 佐藤 政春
本会が今年度購入したX線装置QC用非接続型測定器Piranhaについて紹介します。

モダリティとしてはマンモ、X線撮影/透視、CT装置。

測定項目はkVp、総ろ過、曝射時間、波形(放射線管電圧)、パルス数、mA、mAs、線量、線量率、半価層、その他モニタ管理の輝度、照度の測定ができます。測定結果は本会備品のノートPC(ソフトウェアインストール済)に表示保存されMS/EXCELにも対応しています。貸し出しマニュアル、備品チェックリスト、操作マニュアルなどを現在作成中です。

(マンモCT一般撮影/透視の測定マニュアル)

処理にPCを使うなど初めての方には操作がやや煩雑です。高価な測定器ですのでPiranhaを正しく使いこなすためには測定経験者から取扱説明を受ける必要があります。精度管理委員、精度管理実務担当者、Piranha使用経験者にも協力していただき取扱説明を臨機応変に行う予定です。

貸し出しについて

はじめは東北放射線医療技術学術大会にPiranhaを使い演題登録を希望する会員には優先的に貸し出したいと思います。平成25、26年度精度管理委員会事業のPiranhaによる精度管理が始まりますので、一般の貸し出しは秋ぐらいからになりますが、精度管理委員会事業の間に貸し出しをしたいと思います。また各地区で精度管理を行いながら同時に取扱説明も行う予定ですので、今後借りたい方、興味のある方は参加してください。

借用希望者は氏名、施設、使用目的、を明記した文書、またはメールにて各地区の精度管理委員を通じ精度管理委員長に申し込んでください。期間は原則1回につき1週間以内を限度とし、貸し出しは本会会員に限ります。

～お知らせ～

メールマガジン登録方法の案内

メールマガジンの配信を希望する方は

fart@star7.jp

に空メール(件名・本文なし)を送信ください。

メールマガジンでは、分科会、勉強会、学術講演会、地区行事開催案内等のお知らせ、また緊急に会員の皆様にお知らせする内容などについて配信いたします。

地区だより

会津地区

「第82回会津画像研究会」開催

平成25年7月25日(木)、山鹿クリニックにおいて、第82回会津画像研究会が開催されました。当日は小雨混じりのあいにくの天気でしたが、それでも会津圏内の多くの技師の方々に参加していただきました。



今回は東芝メディカルシステムズ株式会社の小竹啓介氏においでいただき、「東芝CTの最新情報（マルチからエリアへ）」と題して、ご講演をしていただきました。2列CTの開発から320列CTの登場までの変遷や、今現在のCTにおける最新技術や最新ソフトウェア情報と、それに伴う画質改善・向上の比較検討、また今後のCTが向かっていくと思われる方向性や、他社のCT技術との結合によって生み出されるであろう次世代CTの話など、多岐にわたって貴重なお話を提供していただきました。（森谷）

いわき地区

「第19回いわき地区画像研究会」開催

平成25年7月13日(土)いわき市立保健センターにおいて第19回いわき地区画像研究会が開催されました。



「メーカー各社の最新クラウドについて」と題して
 コニカミノルタヘルスケア株式会社 村山 誠先生
 テクマトリックス株式会社 近藤 貴之先生
 東芝メディカルシステムズ株式会社 川本 卓司先生
 GEヘルスケアジャパン株式会社 鈴子 英一先生の方々に各社クラウドの構成や現状について、講演をして頂きました。講演後の質問の時間では、画像データのみでなく個々のデータをすべて扱うため、現在のシステムからのデータ移行、セキュリティー、バックアップなどについて様々な質問があげられました。

東日本大震災以降クラウドのニーズが高まっており、活発な質疑応答が行われました。

大変有意義な画像研究会だったと思います。

県南地区

「県南地区サマーセミナー」開催

去る7月27日郡山市ビックアイ7階第2会議室において県南地区サマーセミナーが開催され、大雨のなか100人を超える会員・非会員の参加がありました。

教育講演としてコニカミノルタの佐藤新也氏による地域医療連携についての講演があり、続いて各施設より白河厚生総合病院の吉田彦彦氏による「近隣医院との診療連携について」・星総合病院の続橋順市氏による「関連施設との診療連携について」・塙厚生病院の知々田勝之氏による「読影補助について当院の取り組み」の3題の講演がありました。（本間）

編集後記

残暑お見舞い申し上げます。職業柄仕事では冷房のきいた涼しい（寒いくらいの）室内で作業、終業後暑い屋外に。毎年この季節はお腹の調子が…。きっとこれって冷房病ってやつなんでしょうね。（本間）

私たちがニュースを担当します。会員の皆様へホットなニュースや情報を提供できるよう努めて参ります。情報をぜひお寄せください。

県南（責）	白石 嘉博	星総合病院
県北	池田 正光	福島県立医大
県南	本間 妙	総合南東北病院
会津	森谷 辰裕	会津中央病院
浜通	菅原 正志	福島労災病院
浜通	大井 和広	小野田病院